

生垣実態調査

竹下 宏・中ノ殿 潔

緑の効用がさげばれて久しいが、その中で、生垣は、家庭緑化の範ちゅうに含まれるにもかかわらず、多くの社会的な効果も併せて持っている。垣根本来の効用である仕切りや防犯、目隠し、防風などの役割の他に、樹木の特性としての、大気浄化や気候の緩和、その他災害の防止、さらには心のやすらぎの対象としての効果も見過ぐすことのできないものとなっている。このことから現在広島市内における生垣の利用の現況の把握と、今後どのように変化していくのかを知ることは興味深い問題であるとともに、緑化指導の立場からも重要と思われる。今回は、樹種に重点をおき、以下の要領で生垣実態調査を行った。

調査方法

調査は昭和58年1月30日に行った。調査項目は1. 生垣に用いられている樹種、2. 生垣の高さ、3. 樹木の組合せ、4. 仕立方、5. 併用垣の種類 の5項目で、各戸ごとに行った。

調査地区には、町が出来た年代により、次の3つの地区を選んだ。

1. 広島市安佐南区安古市町高取台（昭和51年造成） 調査戸数60
2. 広島市東区戸坂新町東浄団地（昭和45年造成） 調査戸数66
3. 広島市南区翠町（戦前からある旧市内の住宅地） 調査戸数80

結果

1. 生垣に用いられている樹種

生垣に使用されている樹種は、3地区全体で29種類に及び内訳は、高取台17種、東浄団地14種、翠町21種であった。

樹種をみると、全体では、ヒイラギモクセイ、カイヅカイブキ、アラカシ、キンモクセイの順に使用されていた（図1）。地域別では、高取台団地、東浄団地は、カイヅカイブキの使用率が最も高く、つぎにヒイラギモクセイとなるが、翠町では、ヒイラギモクセイ・アラカシ・キンモクセイの順で、カイヅカイブキについては前

2地区と比べると極端に少なくわずか5.3%の使用率であった。各地区を通してよく使用されているのはヒイラギモクセイであり、キンモクセイについても、各地区とも10%前後の使用率を保っていた（図1）。

2. 生垣の高さ

1) 全体を通して、各樹種別に高さをみると、カイヅカイブキ、ヒイラギモクセイ、キンモクセイについては、2m程度、サザンカ、カナメモチは1.5m程度で並生垣として用いられ、アラカシについては、4m前後の高生垣として用いられていた。またマメツゲについては使用頻度は低いが、0.5m程度の低生垣として用いられていた（図2）。

2) 地区別では、高取台団地と東浄団地で、それぞれ平均1.57m、1.81mとなり、東浄団地の方が高かった。翠町は平均2.65mで、高取台団地、東浄団地の両地区より明らかに高かった。これを樹種別にみると、カイヅカイブキについては、東浄団地の方が高取台団地より高く、ヒイラギモクセイについては、両地区に差は認められなかったが、翠町は、明らかに東浄団地・高取台団地よりも高かった。キンモクセイについては、高取台と翠町で、わずかに翠町が高い程度で、他は差が認められなかった。

3. 樹の組合せ（図3）

単植か混植かで調査したが、混植率は全体で8%しかなく、ほとんど単植であった。

4. 樹の仕立方（図4）

刈込仕立か自然仕立かを調査したが、自然仕立は一番新しい団地である高取台で27%と最も高く、東浄団地は20%、古い住宅地の翠町ではわずか7%で、ほとんど刈込み仕立であった。

5. 併用垣の種類（図5）

生垣に、植物と併せてどんなものを使用しているかを調査した。

全体での使用率は、ブロック39%、フェンス23%、板屏16%、岩組15%の順であった。地域別にみると、ブロック、板屏については、古い住宅地である翠町で使用率が高いが、新しい団地の高取台では最も低かった。逆に、フェンスと岩組みについては、翠町では低く、高取台では高い使用率であった。

全体 (200戸)	ヒイラギモクセイ 21.5 %	カイズカイブキ 21.1	アラカン 10.5	キンモクセイ 8.9	タケ 5.9	カナメモチ 5.1	その他 27.0
安古市町 高取台 (60戸)	ヒイラギモクセイ 17.6 %	カイズカイブキ 25.7	キンモクセイ 8.1	タケ 2.7	カナメモチ 10.8	その他 33.7	
戸坂新町 東浄団地 (66戸)	ヒイラギモクセイ 18.8 %	カイズカイブキ 37.7	アラカン 5.8	キンモクセイ 7.2	タケ 7.2	カナメモチ 4.3	その他 19.0
翠町 (80戸)	ヒイラギモクセイ 26.6 %	カイズカイブキ 5.3	アラカン 21.3	キンモクセイ 10.6	タケ 7.4	その他 27.7	

図1 樹種の使用率

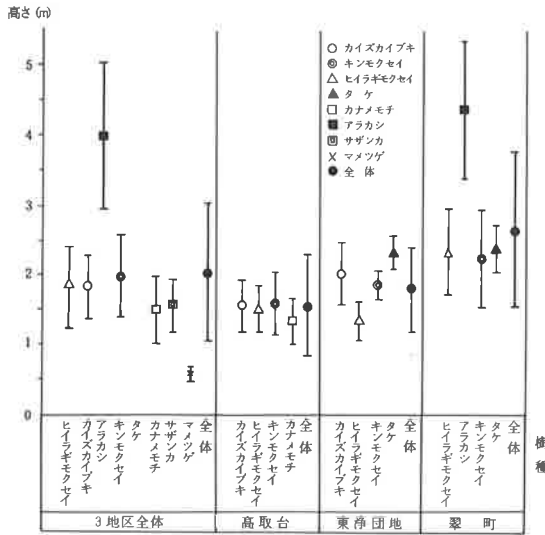


図2 主要樹種の高さ

全体	刈込仕立 83 %	自然仕立 17 %
安古市町 高取台	73 %	27 %
戸坂新町 東浄団地	80 %	20 %
翠町	93 %	7 %

図4 樹木の仕立方

全体	単植生垣 92 %	混植 8 %
安古市町 高取台	90 %	10 %
戸坂新町 東浄団地	96 %	4 %
翠町	86 %	14 %

図3 樹木の組合わせ

全体 (237戸)	ブロック 39 %	フェンス 23	板扉 16	岩組 15	なし 5
安古市町 高取台 (60戸)	ブロック 13 %	フェンス 43	板扉 7	岩組 27	なし 5
戸坂新町 東浄団地 (66戸)	ブロック 37 %	フェンス 27	板扉 16	岩組 17	なし 5
翠町 (80戸)	ブロック 59 %	フェンス 4	板扉 21	岩組 4	なし 8

図5 併用垣の使用率